

このコーナーでは、国内盤、輸入盤を問わず、新譜及び再発モノの中から毎月4人に無理矢理5枚のオススメ作品を選んでもらい、その魅力を紹介していきます。また、読者の方々の原稿も募集

高村立子 ■本誌

- JIM FOETUS
「RIFE」(SOME BIZARRE RIFLE-1)
- PHILLIP BOA & THE VOODOO CLUB
「HAIR」(ボリドール POOP-20248 6月1日発売)
- THE STRETCHHEADS
「FIVE FINGERS FOR THINGERS」(MOKSHA SOMALP2)
- KEITH LeBLANC
「STRANGER THAN FICTION」(ENIGMA 773364-2)
- QUARTETO NEGRO
「QUARTETO NEGRO」(AUVIDIS A 6146)

変な時期に順番が回ってきてしまった。少し前なら XTC、ルー・コストロ、ニュー・オーダーの熱心な聴者で、あと一ヶ月後ならば P.I.L.、ザ・ザ、ガブリエルの新譜にとっぷりなハズなのだが……。

と、そんな時のセレクトはざつとこんなところ。まずは来日の噂もあるフィータスのライブ盤。強力なバック・メンバーを率いてのテイク。ゴッドフレッシュにみられるスワズ張りへのヴィネスも聴きごたえがあったが、このずっしりと重い2枚には脱帽しました。

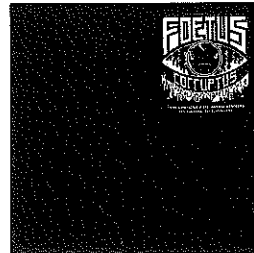
ドイツのコンストラクター・レーベル出身のフィリップ・ボアは4作目の充実したアルバム。デビュー時からかわることのないザ・ヴードウーのツイン・ドラムが囃し出すしっかりとしたりズムと、奇妙にねじれたミステリアスなメロディとのアンバランスさは特筆ものです。同レーベルのジョーヘッドの新譜を待っていたところへ飛び込んできた嬉しい一枚。

ギャング・オブ・フォーの初期“ガチャ・ガチャ”ギターの部分だけが囃ったかの様なグルーブ、ドッグ・フェイス・ハーマンズの別プロジェクト(と思われる)ザ・ストレッチヘッズ。サウンド的には D.F.H.の唯一の難点であった女性ヴォーカルが男性に変わったという(個人的に)理想的な音。初期 G. O. F.フリークはチェックしてください。

そしてタックヘッドのメンバー、キース・ルブランのソロ3作目。ジャケットからも判るように現在の地球を危惧したメッセージをのせたサウンドだが、特にスキップ・マクドナルズのギターはかなりキ

テます。続いてはマリア・ベターニアやガル・ゴスタらとツア一経験もある超ベテラン・ノーカッションスト、ドジャルマ・コレアらのバンド、クアルテット・ネグロ。ブラジルの乾いた空気を伝えるこのノーカッションは好きです。

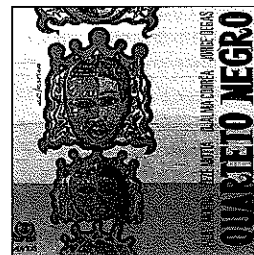
他にバンド・オブ・ホリー・ジョイも愛聴しています。



「RIFE」
JIM FOETUS



「HAIR」
PHILLIP BOA



「QUARTETO NEGRO」
QUARTETO NEGRO